

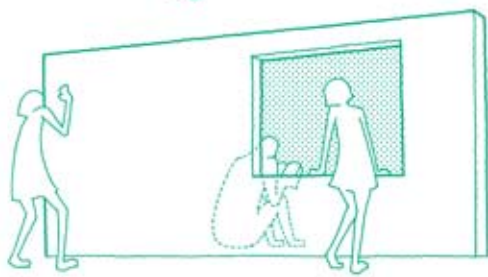
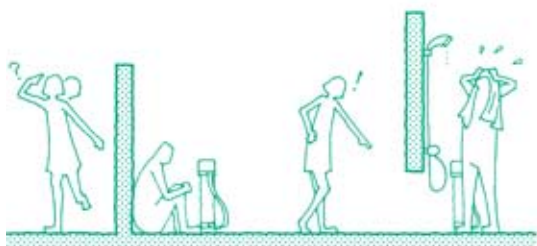
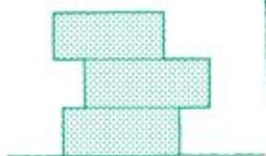
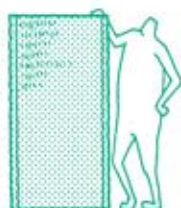
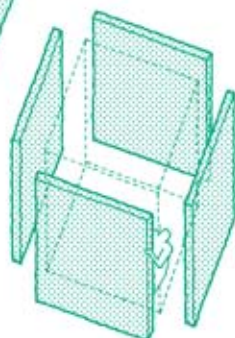
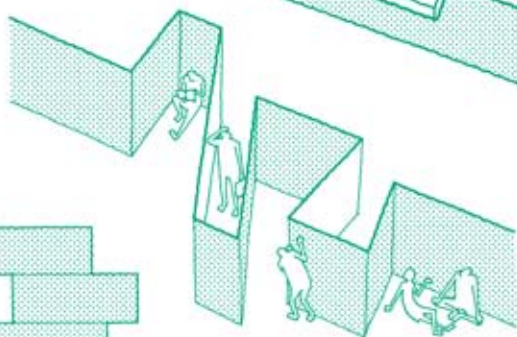
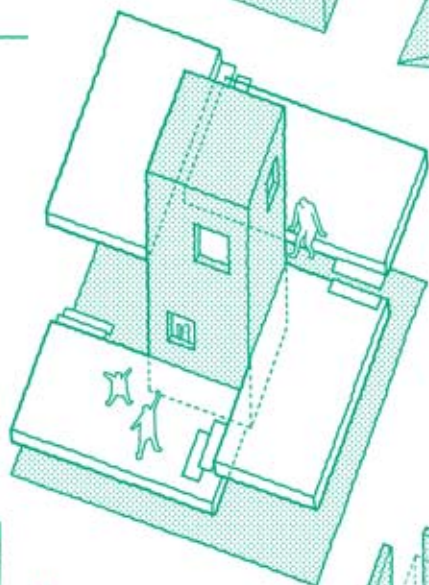
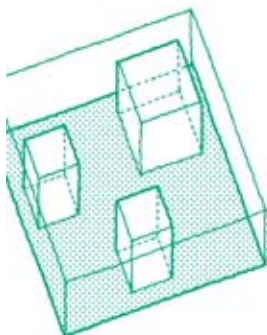
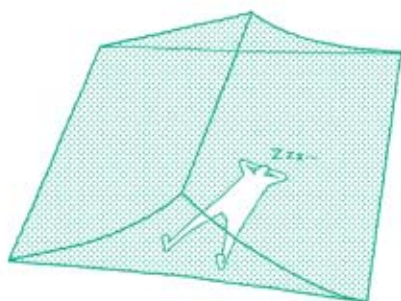
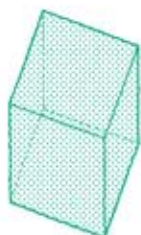
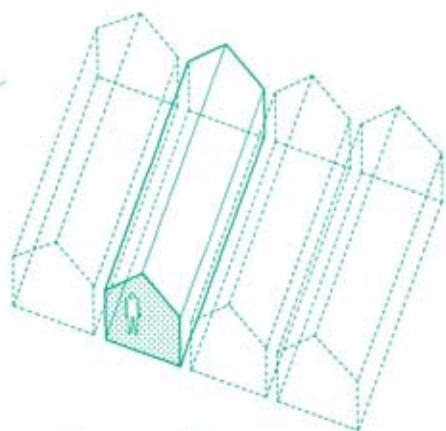
カタチ から考える 住宅発想法

「空間づくり」を はじめるための 思考のレッスン

House Design
Inspirations from
Form and Living Style

大塚 篤

彰国社



住宅の 空間づくりを 「カタチ」から はじめてみる。

はじめに

この本は、住宅設計を「カタチ」から考えていくことをテーマにしている。「いまだき、カタチなんてナンセンスじゃない？」という声が聞こえてきそう。けれど、建築ビギナーに限って言えば、設計課題に取り組むとき、「カタチ」からはじめてみることをオススメする。その大きな理由は2つある。

1. 「コンセプト⇔カタチ」の関係をつかみやすい

本来、はじめにやるべきことは、コンセプトづくりだ。それが計画の軸となり、肉づけするように空間を描き出していく。

けれど、この正しい進め方は、コンセプトという姿のない概念を実体化する難しさがある。つまり、「コンセプトにふさわしい空間を生み出すには、あるていど空間を知っている必要がある」というジレンマだ。それは、「ニワトリとタマゴ、どっちが先？」という関係に少し似ている。ここで、手が止まってしまう人も少なくないだろう。

ならば、逆の手順で進めてみよう。「カタチ」から空間を導き、「カタチ」特有の暮らし方や過ごし方を想像してみるといい。そこに計画のテーマは見い出せるはず。

2. 「カタチ」は比較・検討・応用・蓄積しやすい

本書で言う「カタチ」とは、現実の建築から、表面や細部の要素などを削ぎ落とした、プレーンな姿を想定している。それは、「フォルム」のような形状を指すのはもちろんのこと、「型」のような形式とか、「あり方」や「スタイル」などの状態を示すニュアンスも含んでいる。

いずれも、「具体的」な建築空間を「抽象的」にとらえたイメージだ。抽象化して建築を考えるメリットは数多くある。現実の建築は、色やテクスチャ、ディテールなどの要素をまとっているから、つい、そこに目が向いてしまう。一方、「カタチ」は、本質を表した、空間そのものの姿である。だから、「カタチ」がもっている空間の特徴を見つけたり、空間同士の相違を比較しやすい。また、スタディの過程で「カタチ」を派生させるように展開したり、それらを体系づけた「ボキャブラリー」としてストックしやすい。しかも、「抽象的」に物事をとらえる視点は、設計以外の分野でも活きる。

この本では、「カタチ」から住宅の空間を考えていくとき、注目してほしいポイントを30の視点に分類して紹介している。上手に設計するためのお手本とか、定番の結論へと導くハウツーマニュアルというよりは、あなたが「カタチ」を相手に思考を巡らすときの、手がかりとして活用してほしい。

2016年8月 大塚 篤

目次

はじめに	003
INTRODUCTION 1・カタチを探し集め比較してみる	004
2・カタチを空間に見立てる	006
3・カタチの中に暮らしを想像する	008
INSTRUCTION 困り具合に応じた、この本の手引き	010

CHAPTER 01

空間とカタチ



sec.01 引き算でつくるカタチ	018
sec.02 足し算でつくるカタチ	022
sec.03 細長いカタチ	026
sec.04 壁でつくるカタチ	030
sec.05 床でつくるカタチ	034
sec.06 屋根でつくるカタチ	038
sec.07 折り曲げたカタチ	042
sec.08 入れ子のカタチ	046
sec.09 隙間でつくるカタチ	050
sec.10 束ねてつくるカタチ	054
EXERCISE・01 同じ平面のまま、カタチを置き換えてみる	058

CHAPTER 02

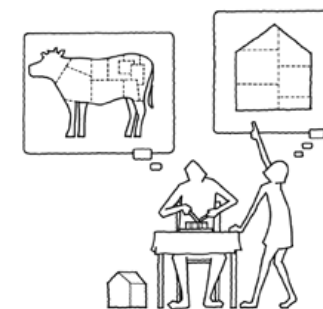
立地環境とカタチ



sec.11 矩形の敷地に建つカタチ	062
sec.12 細長い敷地に建つカタチ	066
sec.13 不整形な敷地に建つカタチ	070
sec.14 隙間に建つカタチ	074
sec.15 斜面に建つカタチ	078
sec.16 木立の中に建つカタチ	082
EXERCISE・02 空間を覆うカタチの見立て	086

CHAPTER 03

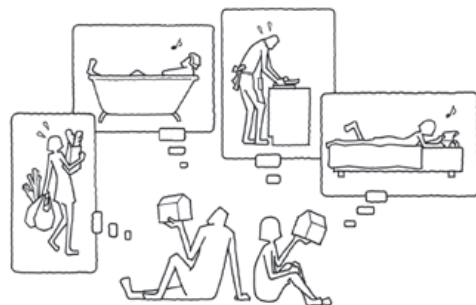
機能でまとめるカタチ



sec.17 ゾーンでまとめるカタチ	090
sec.18 動線でまとめるカタチ	094
sec.19 島型コアでまとめるカタチ	098
sec.20 壁際にコアをまとめるカタチ	102
sec.21 モジュールでまとめるカタチ	106
EXERCISE・03 空間を縁取るカタチの見立て	110

CHAPTER 04

室のまとまりが つくるカタチ



sec.22 リビングまわりのカタチ	114
sec.23 寝室まわりのカタチ	118
sec.24 水まわりのカタチ	122
sec.25 玄関まわりのカタチ	126
EXERCISE・04 断面でみる、暮らしを構成するカタチと寸法	130

CHAPTER 05

ちょっとした 居場所のカタチ



sec.26 隠れ処生活のカタチ	134
sec.27 床座生活のカタチ	138
sec.28 土間生活のカタチ	142
sec.29 窓辺生活のカタチ	146
sec.30 テラス生活のカタチ	150
EXERCISE・05 居場所をつくるカタチ	154
おわりに	156

事例から学ぶカタチと空間

CHAPTER 01 空間とカタチ

ソラニタツイエ	岸本和彦／acaa	021
House O	五十嵐淳建築設計事務所	025
川西町宮コテージB	アトリエ・ワン＋東京工業大学塚本研究室＋三村建築環境設計事務所	029
T House	藤本壮介建築設計事務所	033
浅草の町家	長谷川豪建築設計事務所	037
千ヶ滝の別荘	大西麻貴＋百田有希／o+h	041
イエノイエ	平田晃久建築設計事務所	045
森のなかの住宅	長谷川豪建築設計事務所	049
ドラゴン・リリーさんの家	山本理顕設計工場	053
尾道の家	谷尻誠＋吉田愛／SUPPOSE DESIGN OFFICE＋なわけんジム	057

CHAPTER 02 立地環境とカタチ

雨晴れの住处	原田真宏＋原田麻魚／マウントフジアーキテックススタジオ	065
4・1 (フォーワン)	手塚義明＋小池ひろの／K.T.Architecture	069
山王の住宅	納谷学＋納谷新／納谷建築設計事務所	073
タワーまちや	アトリエ・ワン	077
山の家	三浦慎建築設計室	081
展の家	武井誠＋鍋島千恵／TNA	085

CHAPTER 03 機能でまとめるカタチ

スモールハウスH	乾久美子建築設計事務所	093
二重螺旋の家	大西麻貴＋百田有希／o+h	097
T・N-HOUSE	北山恒＋architecture WORKSHOP	101
Studio 御殿山	千葉学建築計画事務所	105
矩形の森	五十嵐淳建築設計事務所	109

CHAPTER 04 室のまとまりがつくるカタチ

Kinari	松野勉・相澤久美／ライフアンドシェルター社	117
桜台の住宅	長谷川豪建築設計事務所	121
上尾の長屋	長谷川豪建築設計事務所	125
ハウス・イン・ニュータウン	能作淳平建築設計事務所＋大野博史／オーノ JAPAN	129

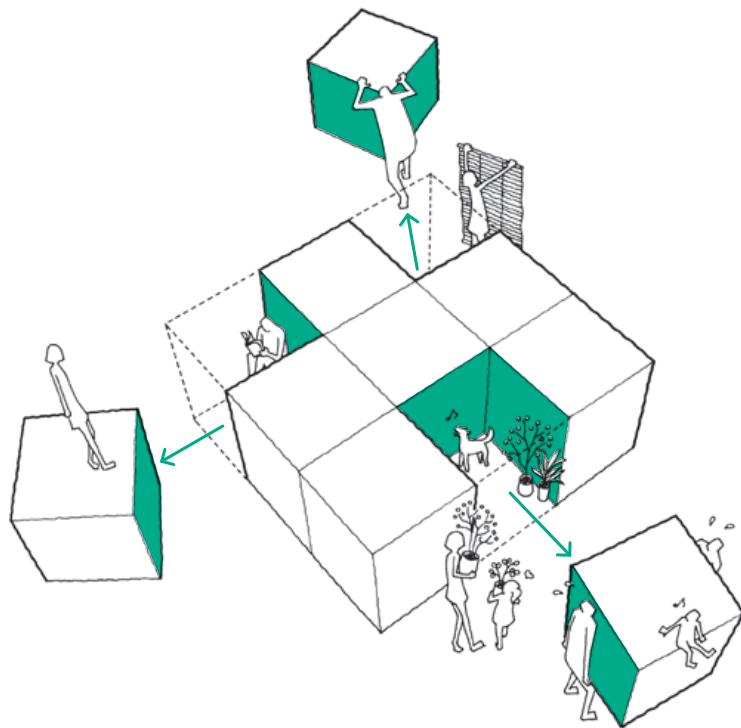
CHAPTER 05 ちょっとした居場所のカタチ

house I	宮晶子／STUDIO 2A	137
Yawn House	小泉誠	141
羽根北の家	佐々木勝敏建築設計事務所	145
カタガラスの家	武井誠＋鍋島千恵／TNA	149
綴の家	植木幹也＋植木茶織／スタジオシナプス	153

SECTION

01

引き算でつくるカタチ



「リアス式海岸」を知っているだろうか？
地図上で見ると、浸食された小さな入り江の連続が、凹凸のある海岸線を形づくる、水際の地形のひとつである。そこでは、陸と海とが互いにせめぎ合っている様子がみられる。言うなれば、境界線がゆらぎ、混じり、溶かされているような感じ。

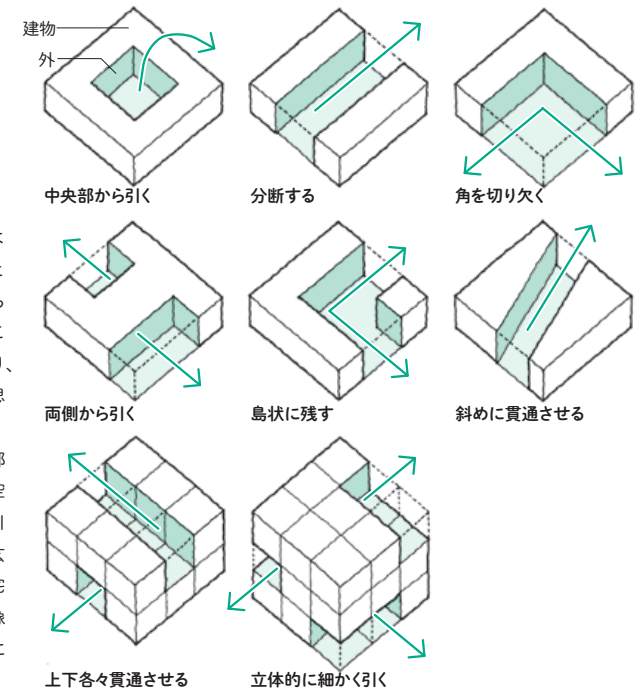
このような、表面の凹凸によって内外が入り交じる様子を、住宅の外形に活かせる

だろうか？

「住宅の内部に居ながら、すぐそばに外を感じられる暮らしにしたい」とか、そんなイメージを抱いたなら、まずは、ボリュームを欠き取るように引き算してみよう。

そのときのコツは、最初の外形を、ハコ型とかイエ型とか、単純なカタチにしておくこと。そして、いろいろな引き方を試して、見比べてみること。

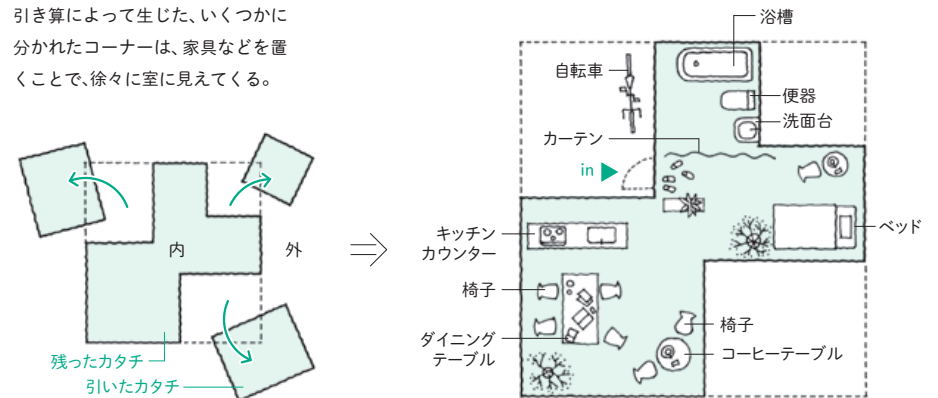
1 引き算の仕方をいろいろ考えてみる



たとえば、ひとつの中庭を設けるように、大きく1カ所だけを引くこともあれば、小さな庭をあちこちに発生させるように、細かく引くこともできる。また、角を切り欠いたり、トンネル状に貫通させてみたり、思いつく限りの方法を試してみよう。
引き算した結果、残った部分は内部空間に、欠き取られた部分は外部空間として見立てられる。このとき、引き算された場所を、庭だけでなく、玄関ポーチ*や屋上テラスなど、住宅に付随する半外部の空間として想像してみると、住宅のプランニングに結びつけやすい。

2 試しに家具などを配置してみる

引き算によって生じた、いくつかに分かれたコーナーは、家具などを置くことで、徐々に室に見えてくる。



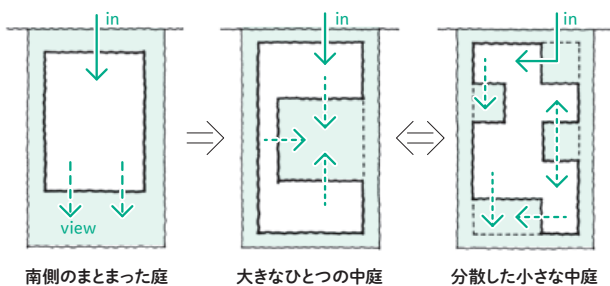
平面の構成

*玄関ポーチ：玄関扉の外側につくる、出入りのための空間。たいていは、底を出したり、2階ボリュームの軒下に設けることで、雨天での出入りに配慮する。[→sec.25]

P [ワンポイント] 引き算の結果、残ったカタチには、どんな輪郭の内部空間が生じているだろうか？引き方を少しずつ変化したスタディを繰り返し、その違いを比較してみよう。

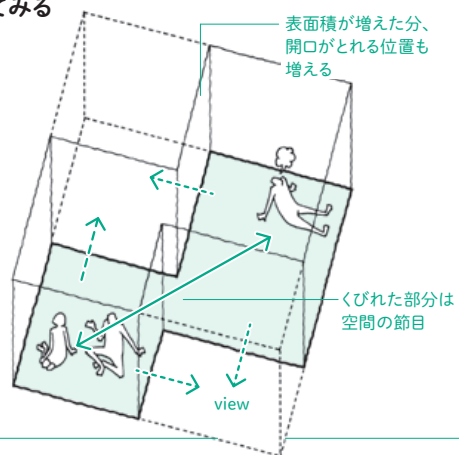
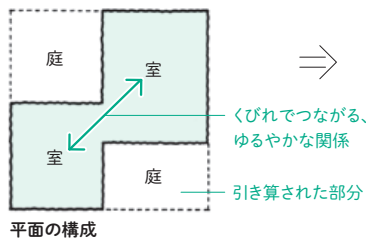
3 引き算で外に接する機会を増やしてみる

たいていの住宅は、敷地の南側に庭を確保し、建物は北側に寄せて配置されている。この配置のデメリットは、庭に接する室に限られること。引き算の発想に切り替えれば、元のカタチよりも周長(表面積)が長くなるため、庭と接する機会が増える。



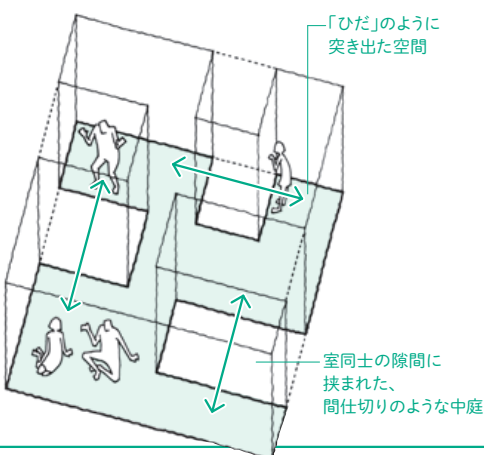
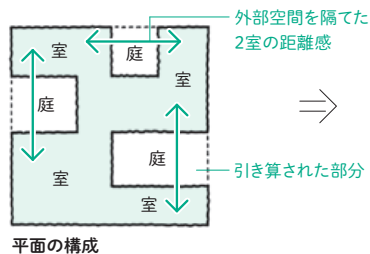
4 ワンルームにくびれで節目をつけてみる

ワンルームの空間で引き算すると、くびれたカタチは、空間の節目になる。くびれ具合によって、室同士のつながり方を調整することができる。



5 挟み込んだ庭で、室同士の距離感をつくってみる

小さく引き算すれば、あちらこちらにライトコート*を設けることができる。これらは採光の役割だけでなく、室同士の間に挟み込まれた「間仕切り」と同様の効果をもつ。

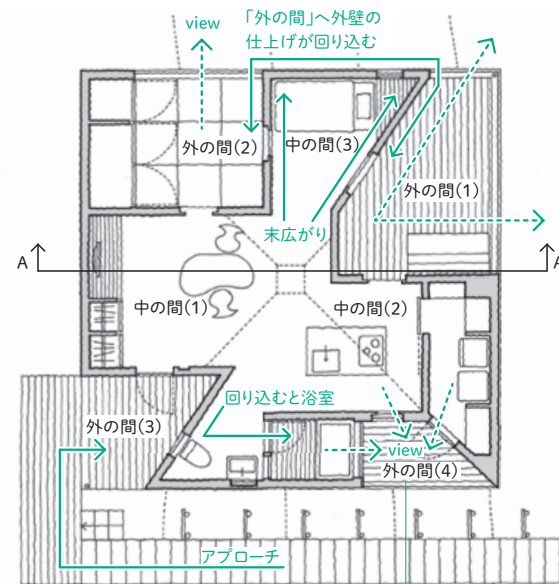


〔ワンポイント〕引き算された部分は、たいていは中庭(ライトコート)に見立てることが多い。そこは、住宅内部のどんな室とつながるだろうか？そして、どんな役割の中庭になるだろうか？

CASE STUDY 01

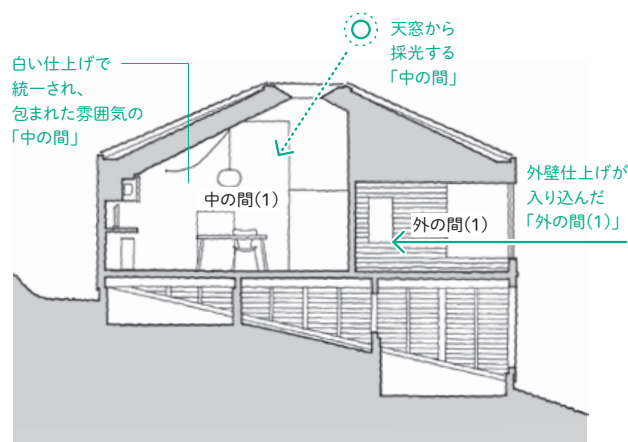
事例から学ぶカタチと空間

引き算で「外」のような居場所をつくる



1階平面図 S=1/150

水まわり各室からの視線を集める「外の間(4)」



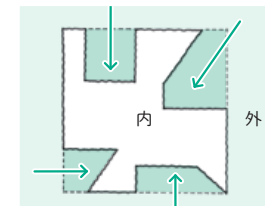
A-A' 断面図 S=1/150

ソラニタツイエ

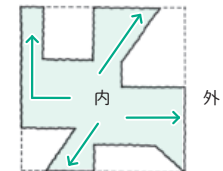
設計: 岸本和彦 / acaa

方形屋根をもつ矩形のボリュームを基本形として、4つの引き算された部分が、「外の間」として位置づけられている。これら「外の間」は、玄関ポーチやバスコートなど、住宅まわりの半外部としての役割だけでなく、外の雰囲気をもった内部の室でもあり、引き算して残った部分(「中の間」)と、対照的な空間が形成されている。

所在	山梨県
主要用途	住宅
家族構成	1人
構造	木造在来工法
規模	地上1階
敷地面積	408.74㎡
建築面積	67.08㎡
延床面積	59.36㎡
竣工	2012年



引き算した部分は、外もしくは外のような居場所



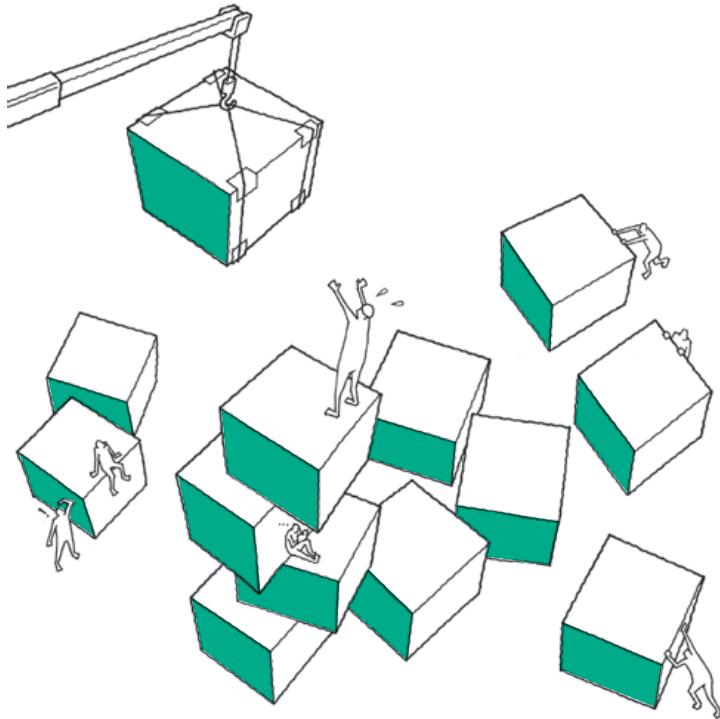
内部は、小さな「ひだ」の集まりのようなワンルーム空間

*ライトコート: 光庭。たとえば、敷地の周囲が密集した環境に建つ場合などで、採光や通風の確保を目的として設けられることが多い。空間づくりの面では、各室がそれぞれの小さな庭をもつような計画もあり得る。

SECTION

02

足し算でつくるカタチ



住宅は、寝る、食べる、入浴する、排泄するなど、さまざまな行為が営まれる場で、たいていの場合、それらに対応した室が用意されている。つまり、住宅に限らず、建築はいくつかの機能をもつ室の集合体であるから、当然、足し算の発想で全体を形づくる方法は、素直な選択肢のひとつだ。

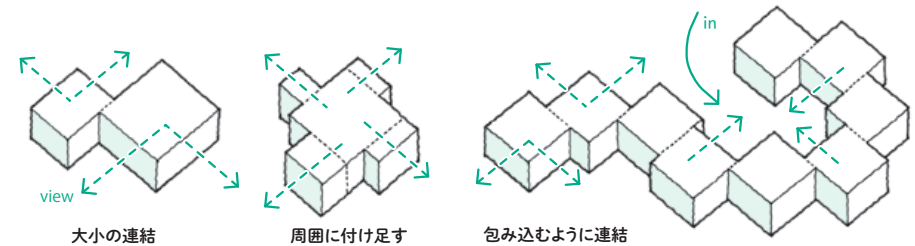
まずは、同じサイズのボリュームを沢山用意して、どのような並べ方があり得るか

試してみよう。たとえば、同じ数珠つなぎの並べ方でも、直線状とは限らない。雁行*させたり、囲い込んだり、S字に折り畳んだり、積極的にずらしてつないでみよう。

ここで大事なのは、それぞれの足し算によるカタチが、どんな家族の暮らし方にふさわしいか、どんなシチュエーションの敷地にマッチするだろうか、などと想像してみることだ。

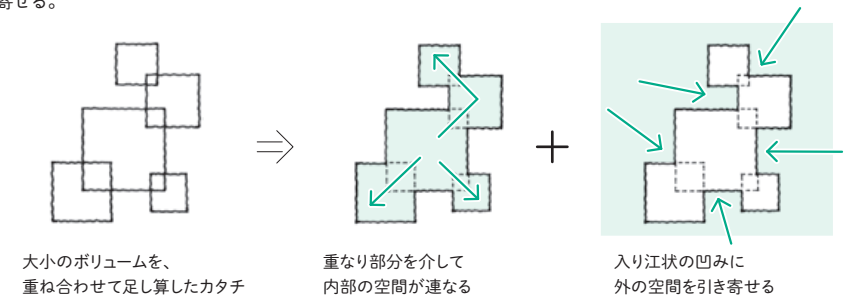
1 ポリウームのつなぎ方と開く向きを考えてみる

足し算するようにポリウームを並べてみたら、どこに開口を設けたらよいかが想像してみよう。カタチに応じた開く向きや、外との関係の作り方が浮かび上がるはず。



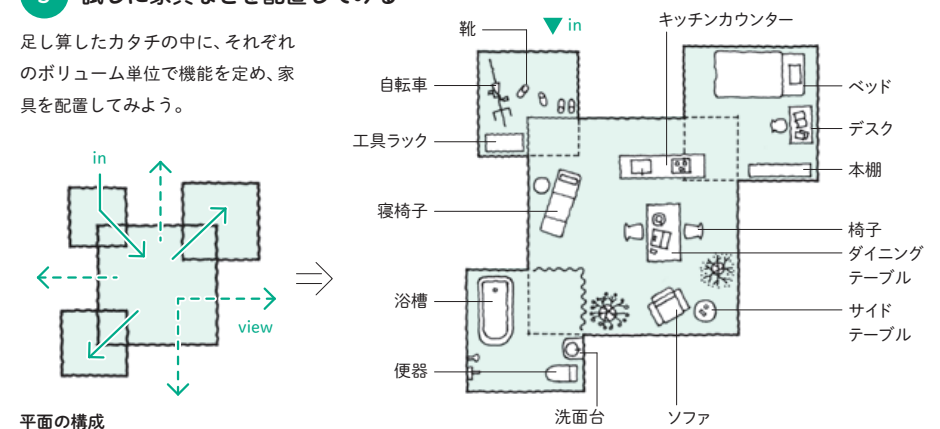
2 足し算したカタチの内と外に注目してみる

足し算したカタチは、その内部に、ほぼ外形そのままの空間が連なる。一方、外形の凹凸は、小さな入り江のように、外を引き寄せる。



3 試しに家具などを配置してみる

足し算したカタチの中に、それぞれのポリウーム単位で機能を定め、家具を配置してみよう。



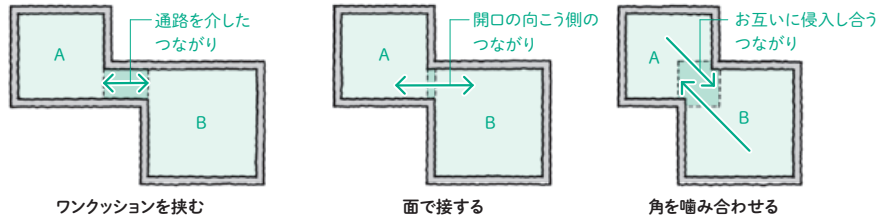
平面の構成

*雁行：編隊飛行をする雁(がん)の列にたとえた、斜めにずらした配置のこと。空間づくりの面では、ボリュームを直列させるよりも、開口の面積や向きの選択肢が増す。また外形に生じる入隅部分に、外を引き寄せることができる。

P [ワンポイント] 足し算したカタチの全体は、大きなひとつのワンルームとして見立てよう。そして、室の集まりというよりは、小さな「ひだ」のような空間が集まった姿をイメージして検討するといひ。

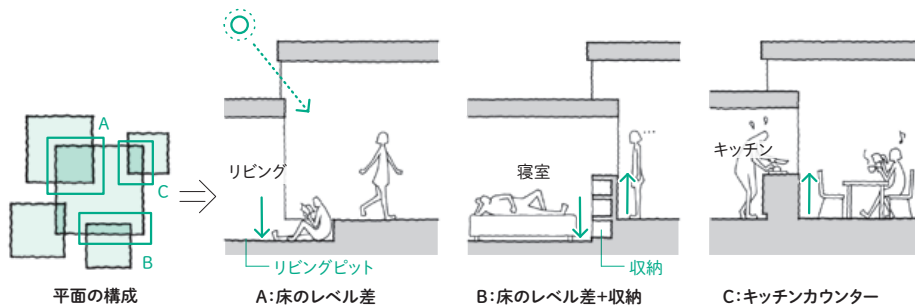
4 つなぎ方のサジ加減を考えてみる

ボリューム同士のつなぎ目は、接したり、重ね合わせたり、サジ加減によって、つながり具合を調整することができる。



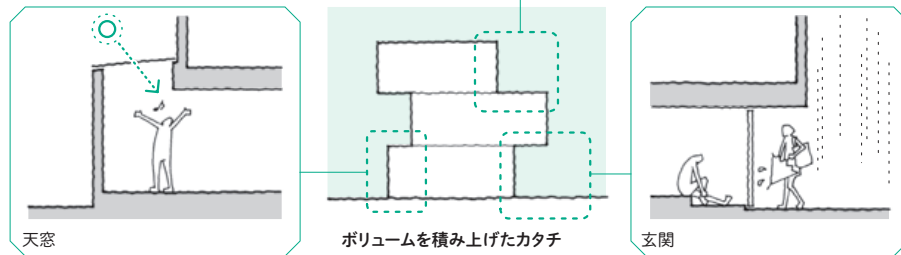
5 機能に応じたつなぎ方を、断面で考えてみる

ボリューム同士のつなぎ目は、異なる機能の空間同士が接することが多い。平面だけでなく、断面でも、それぞれに応じたつながり具合を検討してみよう。



6 垂直方向にも足し算してみる

雁行させた配置のように、ボリュームをずらして足し算すると、外と接する部分が生じやすい。それは、平面だけでなく、立体的に積み上げて足し算する方法でも同様だ。カタチのずれた部分に、天窓や、テラス、玄関ポーチなど、半屋外の空間を想像してみよう。



CASE STUDY 02

事例から学ぶカタチと空間

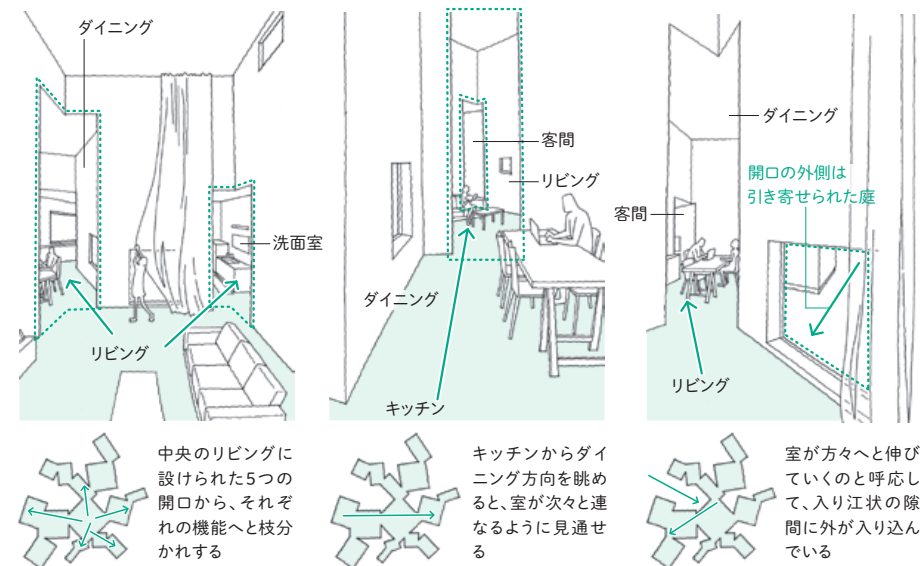
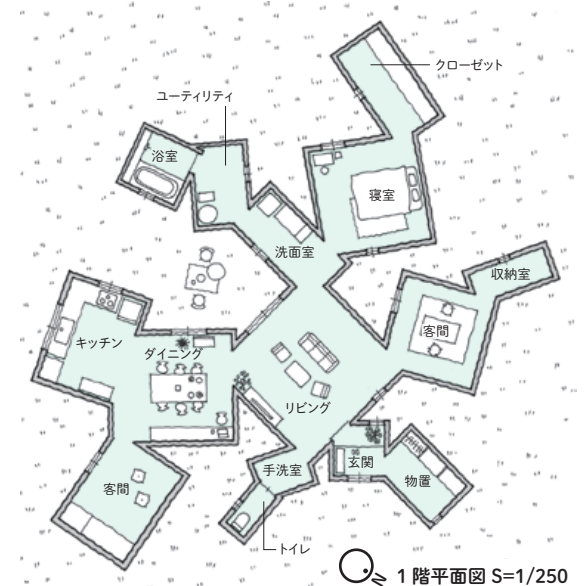
ボリュームの連なりがつくり出す内部の奥行き感

House O

設計:五十嵐淳建築設計事務所

リビングを中心に、機能ごとのボリュームの枝分かれによって、放射状に連結した全体形をもつ。ボリューム同士の距離感、相互の関係に合わせて、重なり代(=開口サイズ)と、接する角度(=見通し具合)によって調整されている。

所在	北海道
主要用途	専用住宅
家族構成	夫婦
構造	木造
規模	地上1階
敷地面積	1483.65 m ²
建築面積	112.15 m ²
延床面積	112.15 m ²
竣工	2009年



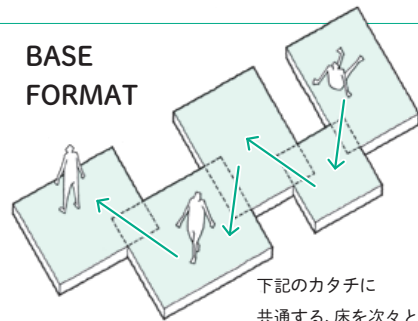
【ワンポイント】足し算したカタチのひとつひとつのボリュームは、住宅を構成するなんらかの室になるはずだ。それぞれがどんな室にふさわしいか想像しながら、ボリュームの配置を検討しよう。

EXERCISE・01

[同じ平面のまま、カタチを置き換えてみる]

設計のスタディを進めていると、ときおり行き詰まり、堂々巡りに突入してしまうことが誰にでもある。

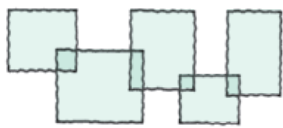
そんなときは、同じ平面のままで、気分転換するように、異なるカタチに置き換えてみよう。平面の輪郭が似ていても、カタチが違えば、内部のつながり方や、外部との結びつき方も変化する。

BASE
FORMAT

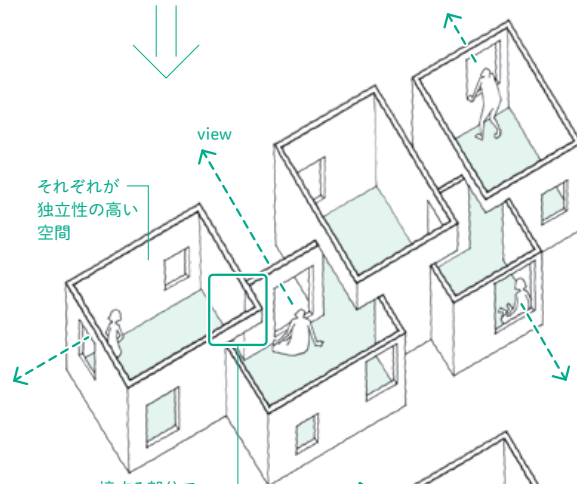
下記のカタチに
共通する、床を次々と
渡り歩くイメージ

足し算でつくるカタチ

sec.02



ボリューム同士が接する部分に、くびれたカタチの節目が生じ、個々のボリュームが独立性の高い空間となっている。



それぞれが
独立性の高い
空間

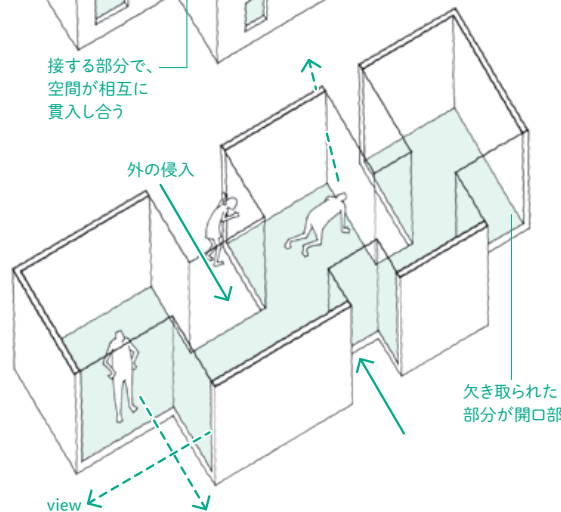
接する部分で、
空間が相互に
貫入し合う

引き算でつくるカタチ

sec.01



引き算すると、室内側に外が引き寄せられ、それが間仕切りの役割として、室内空間がゆるやかに分節されている。



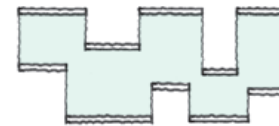
外の侵入

欠き取られた
部分が開口部

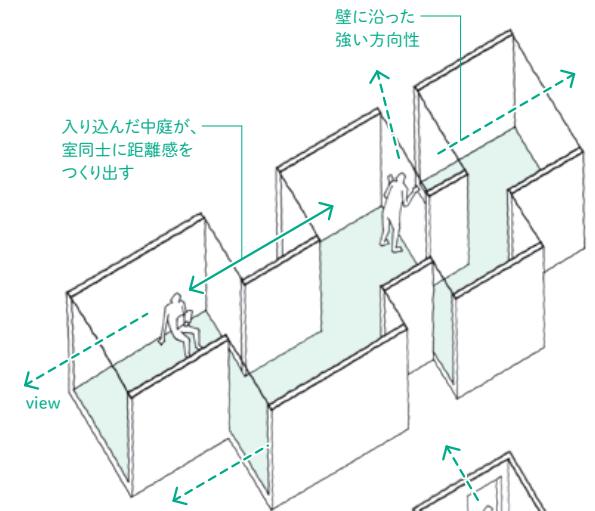
view

壁でつくるカタチ

sec.04



バラバラに壁を配置すると、個々の空間では、壁に沿った強い方向性が生じつつ、全体として内外が混じり合っている。



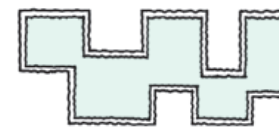
入り込んだ中庭が、
室同士に距離感をつくり出す

壁に沿った
強い方向性

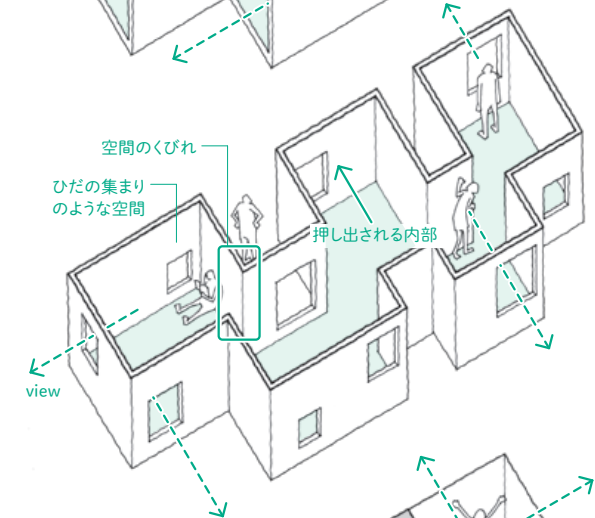
view

壁を折り曲げたカタチ

sec.07



折り曲げた壁を連続させることによって、小さなひだ状の室内空間の集まりとして全体が形成されている。



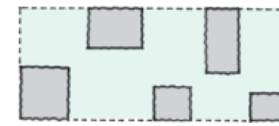
空間のくびれ
ひだの集まり
のような空間

押し出される内部

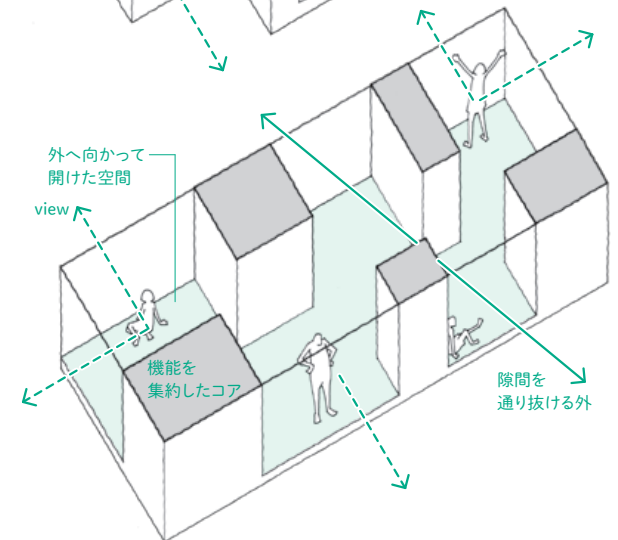
view

隙間でつくるカタチ

sec.09



分散したボリュームの隙間に、外へ向かって大きく開けたり、外が通り抜けるような空間が生じている。



外へ向かって
開けた空間

機能を
集約したコア

隙間を
通り抜ける外

view